

税金で生きた私

長崎市立小島中学校 3 年 奥田 瑠奈

私が小学五年生まで過ごした場所は児童養護施設です。九年間暮していた児童養護施設では沢山の税金が使われていました。税金で生きていることを知ったのは小学生の頃です。毎年あたりまえにもらっていた誕生日プレゼント、朝昼晩毎日食べられるご飯、衣類や生活用品、病院や薬代などどうして払っていないのに当たり前にもらったり使用できるのかが不思議でした。高学年になったとき税金の仕組みについて学校で学びました。税金の使い道はみんなが使う公共の場や日本のためにある場所、職業などその中に私が暮らしている児童養護施設も入っていました。そのことをきっかけに興味を持ちました。詳しく知ってみたい気持ちもありましたが施設内ではインターネットが使えずそれ以上知ることはありませんでした。税金の事をする前、小学校低学年の頃に施設の職員に私たちのお小遣いや食費はここで働いてる人が払っているのかを聞いたこともありません。その時は国がお金を出しているということを少し教えてもらいました。学校の授業で税金の存在を知り税金は国に無限にあるお金ではなく日本で生きる大人が支払ったものだと思いました。その時に税金が国を通して私たちの暮らしにつながっていることを知り、本当に感謝しました。施設で自由なく暮らせたのも、しっかり栄養のあるご飯が食べられたのも税金があって本当によかったなと思いました。未成年の私には大人が払うような大量の税金を払ったことはありません。税金に納得できない人、生活が苦しくて税金を払うのが大変な人、さまざまな気持ちを持つ人がたくさんいると思います。今私が思う気持ちは、私が幸せに暮らせたようにそういう場所に正しく税金が使われてほしいと思いました。知らない人のために自分が払ったお金を使われるのを不快に思ったり児童養護施設に対していい思いをしていない人が世の中にたくさんいることを知っています。施設で暮らしていた私に対して国のお金を使って裕福な暮らしをしているや、特別扱いされているなど嫌な言葉をかけてくる人もいました。ですが、税金を使用しているのは子供たちだけでなく税金を支払っている大人も使用しているのです。病院や警察など身近なものにも税金が使われています。税金を払ったり使用する人に嫌な気持ちを向けず一人一人がしっかり払うようになってほしいです。もっと周りに税金の使い道や税金がないとどんな未来になるか、知ってもらったり少しでも税金のことについて前向きな考えを持つ人が増えたらいいなと思います。そのために学校で詳しく勉強したり、みんなが目につくところに記載したりして日本で暮らす人が税金のことについて詳しく知る機会があるといいなと思いました。より良い日本になるために日本に住む人々が協力できることのひとつだと思います。自分たちで過しやすい日本をつくろう！